

事例1

< 事例概要 >

- ・ 進行性核上性麻痺、60 歳代の患者。死亡時画像診断 (Ai) 無、解剖無。
- ・ 経口摂取困難のため、栄養剤投与目的に胃管を挿入した。BMI 14.6。
- ・ 意思疎通困難、頸部後屈、気管切開。
- ・ 胃管が詰まったため、看護師が胃管を入れ替え、気泡音を確認してから白湯の投与を開始した。15 分後、口腔内に分泌物が貯留し、45分後には気管切開部からも分泌物を認めため、投与を中止した。約 2 時間後、経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO₂) が低下、顔色不良となり、呼名反応が低下した。X 線で胃管が左主気管支に挿入されていることが確認され、人工呼吸器管理などを行ったが、24 日後に死亡した。